

# ビオトープの花

## ハンノキ

まだ春の気配もない寒い2月、ビオトープの一面で早春の花が開きます。ハンノキの花です。花と言っても写真のように目立たないみずぼらしい花です。赤茶けたひものようなものが雄花です。雌花は極めて小さく、小枝を手にとってやっと見える程です。写真には黒っぽい松かさのようなものが写っていますが、これは昨年に雌花が熟した実です。



ハンノキは湿地に生える木です。ビオトープの二本のハンノキは移植されたものですが、手賀沼の周辺や谷津の湿地跡に今も自生のハンノキが残っています。ビオトープの近くでは、増尾城址公園の湿地や中原小学校下のホテル生息地などで群生を見ることが出来ます。

ハンノキはヤナギ類とともに湿地を代表する木です。所々に残っているハンノキやヤナギ類の木を見つけることによって、昔の湿地帯や手賀沼の姿をうかがうことが出来ます。ビオトープのハンノキは移植ですが、よく根付き盛んに花をつけています。ハンノキはビオトープの湿地と相性が良さそうです。

(佐々木光正)

## ビオトープとわたし

### 佐藤郁子



私の田舎は、冬には流水が訪れる港町です。幼い頃を振り返ると、春や秋には実利を兼ねた山遊びに行きましたが、「野原で駆け回った」という記憶はほとんどありません。また、植物や昆虫などの生態系も違いますので、先輩会員のみなさんにはいろいろ教えていただくことが多く、ビオトープで過ごす時間は大切なひとときです。米作りの作業も大変な中にも、新しい気づきが多く新鮮な気持ちになります。

なかでも、田植えや稲刈りなどでの、名戸ヶ谷小学校の子どもたちとの交流をととても楽しみにしています。母親というには少々無理がある年齢の私ですが、素直な子どもたちとの会話はとても楽しく、近頃の子どもの事情も知ることが出来ます。きっと普段は無愛想な私も、穏やかな表情になっているのではないのでしょうか。

我が家が柏に流れ着いて(?)、来春には10年になります。それまでは、ときには1年でまた次の土地へ、という暮らしでした。振り返ると、苦勞の分以上に楽しい思い出がたくさんなのですが、家族と自分が慣れることで精一杯。地域の活動に目を向ける余裕は、ほとんどありませんでした。ですから、名戸ヶ谷ビオトープで子どもたちの環境学習や、地域の環境保全活動に参加できることはとても嬉しいことです。みなさん、これからも末永いお付き合いをお願いします。

## 編集後記

年4回化の最初の号で、戸惑いがありました。8ページ化にチャレンジしましたが、大型原稿を掲載するというねらいは、なんとと言っても、皆さんの協力がないと難しいことを実感しました。幸い、原稿、写真ともに大変なご協力をいただき、なんとかまとまったかなと思っています。

執筆などが役員に偏っているきらいがあり、もっともっと会員全員の活動が反映した紙面にしたいと考えています。ご批判、ご感想や、おもしろい写真があったらお寄せください。(高田)

# 名戸ヶ谷ビオトープだより

第40号

2009年冬号

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

## 収穫祭特集

# 収穫祭を終えて



恒例となった餅つき、見守る面々にも力が入る

立冬を過ぎた翌日の暖かな一日で、21年度の収穫祭は、会員及び家族31名、名戸ヶ谷小学校教頭、柏市環境保全課長の来賓、更に名戸ヶ谷小ネイチャークラブメンバー5名、そして第4中学校児童7名と合計45名の多くの方に参加して頂き、盛大且つ無事に執り行う事が出来ました。故窪田様の奥様にも出席頂き、缶ビールを、又環境保全課長から野菜の差入れがありまして厚く御礼申し上げます。準備にあたり、豚汁担当の佐藤さん、おにぎり作りの山村さん、上村さんには大変ご苦勞をおかけしました。又幹事及び会員皆様のご支援、ご協力に改めて感謝致します。

幹事会で実行委員長を任命され、昨年度実行委員の影山幹事からのアドバ

イスを受け、二人で前年の収穫祭関係資料を見ながら準備して来ました。不足器材類、食材関係の買い出し、名戸ヶ谷小からの器材借入等をほぼ前日までに終了。今回より体力負担の軽減からバーベキューを取りやめました。

田植え、草取り、稲刈り、脱穀と経て、ようやく新米となり、今年を思い起こしながらかみしめた事と思います。4種類の搗き餅と4種類のおにぎりを頬張り、具いっぱい豚汁は、美味しくておかわりの続出でした。又炭火のさんま焼きも出てこれまた美味しく頂きました。

餅つきも腰を痛めないよう早めの交代で仕上げて、子供達も搗いての体験は彼らの良い思い出となることでしょう。米作りの大切さを少しでも学んでもらう事で、このビオトープの意義はあろうかと思えます。

ヴィヴァルディ《四季》の「秋」第1楽章で「収穫を祝って村人が踊り歌う」とあります。イタリア人の喜びがわかる様です。こちらは踊り歌なしですが、互いの楽しい語らいとふれあいで、あっという間に時間が過ぎて散会となりました。実行委員を代表して御礼申し上げます。

(藤平三郎：収穫祭実行委員長)



ビオトープを見下ろしながら収穫の喜びを歓談

## 収穫祭のスナッフから



やはりハイライトはもちつき。  
子どもから、老青年まで多くがチャレンジ。  
準備の過程が楽しい。



窪田さんの奥様からはご寄付もいただいた



つきあがったモチはさらに加工されて

## 病床日記

春山 秀雄

「秋来ぬと目にはさやかに見えねども一」10月に入り、入院生活も7週目に入った或る晴れた秋の日の午後。入院先である東京医科歯科大学附属病院13階の閉ざされた病棟の窓から夏とは違った色の空が覗く。あ、秋の色だ！病棟の廊下の窓ガラスに頬をすりつけながら心の中でひっそりとつぶやく。「風のおとにぞおどろかれぬる」。

たしか古今集ではなかったろうか。なんの変哲もない点滴と車椅子ばかりの生活をしていると、フト発見する雲の色の変化にも新鮮な驚きを感じるものだ。思わず看護師さんに尋ねる。「風のおとにぞおどろかれぬる、って昔の歌人は詠んだようですが、吹く風のおとにも変化を感じますか？」と僕。「さあ一、朝夕の風はひんやりしてきましたけれど」

思うに僕の病は4月9日に始まった。お茶の水の病院で4年前に手術した「閉塞性動脈硬化」の検査入院中に嘔吐と下痢。点滴治療やCTスキャンを続けるうちに、「慢性硬膜下血腫」と判明し、慌てた外科の主治医付き添いの救急車で東京厚生年金病院（脳外科）に搬送され、5月1日まで点滴治療を続けることになる。4月下旬の名戸小の田植えには入院中のために参加できない。せめて不耕起水田の田植え取材だけでも思っただけの無理をしたのか、5月9日の田植えのスナッフを撮っている最中に再び突然の嘔吐。作業中の会員の手を煩わせて目の前にある名戸ヶ谷病院で治療とMRI検査を受ける羽目になる。



名戸ヶ谷小の生徒に取材中の筆者

7月に入ってからも各科を治療でわたり歩いていたが、8月3日からの入院中に受けたカテーテル検査の結果、心臓の異常が発見される。生き延びる唯一の道は身体の5ヶ所の動脈と静脈（左右の胸、胃、左腕からの動脈と左下肢の静脈）を切り取り、縫い繋いで、心臓から身体の各部位に血液が流れる「冠動脈」バイパス手術を行うこと。この道の第一人者、東京医科歯科大学心臓外科のA教授、を中心とするチームに手術を任せる以外にないらしい。というわけで、8月3日から入院していた真向かいの病院を数日仮退院し、8月24日に東京医科歯科大学附属病院に入院。26日に手術。10時間におよぶ大手術のため手術後の回復に時間を要し、入院から約50日後の10月10日ようやく退院となる。

手術室→ICU(集中治療室)の個室→集中看護室→2人部屋→6人部屋（心肺科）と部屋を移動するたびにさまざまな医師や看護師、患者との新たな出会いがあり、別れがあった。心臓の提供者（ドナー）が現れるのを根気よく待ち続ける物静かな患者のAさん。筑波大学の病院から治療に一筋の願いを込めて救急車でやって来たというBさん。不思議なことに重い病気を患った人、生死の境を体験した人にかぎって誰もが物静かで明るい。難病は人を哲学者に変えるのだろうか。来年の6月からアフリカのマダガスカルで難民の医療活動に従事するため、フランス語も勉強中と目を輝かせるMさん。MSF（国境なき医師団）で働くことも考えたという。希望を語る時の若い彼女の目の輝きも忘れられない。

### 総会のお知らせ

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会は下記により、第8回総会を開きます。総会成功のために皆様のご出席をお願いします。（欠席の場合は別途送付の委任状をご提出願います）

- 日時 2010年1月23日 10時～12時
- 場所 南部クリーンセンタービル3階ホール
- 議案 2009年度活動および決算報告、2010年度計画および予算案審議、その他
- イベント 第2部として、講演「柏の自然環境とその保護」金子雅一氏（柏市環境保全課長）  
なお、総会議案書は当日配布となります。

# 秋の生態系調査・自然観察会

## 【生態系調査】

11月9日に柄澤先生をお招きして、生態調査を行いました。  
調査日の天気は良かったのですが、前日までに冷え込んだ日が数日続き、ビオトープの生きものたちの様子は秋も深まったような雰囲気でした。  
いつも見られるニホンアカガエルなどの両生類なども、冬眠の体制に入ってしまったのか調査はじめには姿を見ることができず、ビオトープを代表する生きものがないのはまずい、と探しまわってようやく見つけた次第。  
最終的には、例年並みの40種程度の生きものたちを確認することができました。  
下に生態系調査のとき撮影したおもしろい生き物をいくつか紹介します。

## 【自然観察会】

10月24日の曇り空の中、自然観察会を行いました。今回は広報かしわに告知を掲載したこともあって、たくさん子どもたちを期待したのですが、天気が不安定だったこと、巷で新型インフルエンザが猛威を奮っていることが影響してか、参加者は少なかったです。水網も新規に10本購入して待っていただけに残念でした。  
そんな感じでしたが、それでも2組の親子と2人の子供たちが参加してくれました。大きなザリガニや、スズエビ、カダヤシなどを見て楽しんでくれました。(松清智洋)



ウラナミシジミ



ジョロウグモ



コカマキリの卵鞘



オオカマキリの卵鞘

# 曇天の下でのもち稲の脱穀

名戸ヶ谷小校庭にて



9月下旬は天候不順が続きましたが、名戸ヶ谷小での「もち稲」の脱穀は9月29日(火)曇天の下で行われました。空模様を気にして会員諸氏は早めに8時に校庭に集合し、準備に取り掛かり、9時には脱穀を開始しました。

当日は1、2年生の遠足の日で、先生方も大忙しで、教頭先生を先頭に10時40分から5年1組が担任の先生の指揮で、全員で稲運び、続いて足こぎ脱穀組と唐箕精選組に分かれて始まり、途中で作業交代をして進めました。11時30分からは2組に選手交代して続け、12時30分前には脱穀作業は無事終了しました。その後一緒に作業した生徒達の一部と2Fの理科室で給食をご馳走になり、楽しい一時を過ごしました。昼食後、後片付けの途中には心配していた雨も降り始めたが2時には全作業を終了しました。

生徒達は初めての脱穀機で手に持った稲束を持ってゆかれそうになったり、藁の切れ端の混じった籾を唐箕にかけ軽い藁屑を風で飛ばして精選することにも初めてチャレンジしました。また軍手についた籾を手で丹念に取り除いているのが印象的でした。生徒達は田植え、稲刈りに続いてこの脱穀作業を体験し、日本古来からの稲作りの全容を手と肌で感じ取ったものと思います。(影山賢三)



生徒たちも忙しく働き、脱穀を体験した

## 珍しいアマチュアカメラマンの被写体にも育てる会会員によるうるち米の脱穀



昔ながらの脱穀を珍しがられる

9月15日(火)までに刈り取り、パイプ棚で天日干しにしていたうるち米を、10月4日(日)に木村宅跡地で脱穀しました。当初は3日(土)に予定していましたが、雨天のため順延したものです。当日は天候も回復し、晴天のもと会員多数の参加を得て、ブルーシート上に足踏み脱穀機、唐箕などを動員して作業を進めました。昔ながらの作業風景に、珍しいとアマチュアカメラマンの被写体ともなりましたが、若い会員の脚力に助けられて順調に進み、途中おにぎりで一息入れましたが、13時30分頃までに全量の脱穀を完了しました。脱穀した籾は18.3袋となりました。(外川 克之)

## 2009年度産米の収穫状況

今年は7月の天候不順の影響を受け、春先からの「田植え前の整備」「田植え」「田草取り」「有機肥料の散布」「稲刈り・稲架干」「脱穀」等の作業に会員皆さんの汗水流した努力にも拘わらず、収穫米の量は昨年より若干下回りました。

精白米ベースで、もち米は120.6Kg(前年比87.6%)、うるち米は287.4Kg(前年比104.4%)、合計で408Kg(前年比98.8%)でした。

もち米の減収の幾つかの理由の一つは結実期の7月の低温に加えてもち米水田、特に1、3番田は湧水口に近く、昇温不足の湧水が水田に通水されたことが考えられます。しかしこれまで最高の出来だった昨年と比較した数値であり、そう問題視する程ではありません。

一方うるち米の水田は湧水口から比較的離れており、十分に昇温した水が通水されていたため天候不順の影響をそれ程受けず、収穫量も順調でした。又皆さんが11月8日の収穫祭で「おにぎり」にして実際に食べて確認されましたように高温障害も受けておらず、風味に問題はありませんでした。

会員の皆さん、この一年間本当にお疲れ様でした。来年もまた気持ちを新たに頑張らしましょう。

(影山賢三)

# パイプはずし・コメの分配



パイプ解体を終わって ジョイントが重い

## 【パイプ解体】

コメの収穫が終わった後には、いろいろな作業が待っています。

10月17日のビオトープ定例作業日に、稲束を干していたパイプの棚を解体して、パイプを収納しました。

集団の力で、短時間で終了です。

パイプ解体後は、稲わらの散布作業も行いました。



コメを2kgずつ小分けする

## 【コメの分配準備】

今年も、収穫したコメはうるち米、もち米を2kg単位で希望者に「活動資金寄付」付き配布しました。

寄付のめやすは昨年同様 うるち米 600円/2kg、もち米 800円/2kgでした。(残りについては要問合せ)

11月15日にヌカの水田への散布作業と併せて、コメの分配準備をしました。2kgずつ小袋に入れる作業です。

# 名戸ヶ谷小の餅つきに協力



二人ペアで元気よくつきあげる、しだいに上手に

12月14日、ビオトープで収穫したモチ米をつきあげようと、名戸ヶ谷小5年生による餅つきがあり、育てる会が協力しました。

餅は3臼で、校庭に設営したカマドで薪を焚いて蒸し上げたモチ米を、会員の指導で5年生のみなさんが懸命につきあげました。やっているうちに、だんだん上手になりました。かなり上達した女の子も出てきました。

終了後、できあがったモチを使った給食で



給食室で子どもと一緒にごちそうになりました

餅つきに協力した会員も招待されて、子どもたちと一緒に楽しくいただきました。中にはきなこモチ、ショウユモチ、併せて10個ほど平らげた子どももいたようです。

(高田)

# ビオトープの植物追跡調査

ビオトープに生える湿地生植物の移り変わりを調べています。最初に調査した2004年には54種類の湿地生植物がありました。その後2009年までの間、消滅したものと新しく見つかったものがありました。

上記の湿地生植物以外に、湿地以外に生える植物が沢山あります。このうち、比較的貴重と思われる人里植物15種類を追跡調査してきました。こちらの方は衰退が激しく、6種の植物が消滅しました。

(佐々木光正)

2004年の調査で判明したもの	54種
その後消滅したもの 絶滅したと思われるもの 再生が期待されるもの	4種 ヘラオモダカ、キカシグサ、 ウキクサ、ヤナギタデ
その後新たに見つかったもの	6種 ヌメリグサ、ウシクグ、ショウブ、イヌコリヤナギ、 マツカサススキ、イチョウウキゴケ

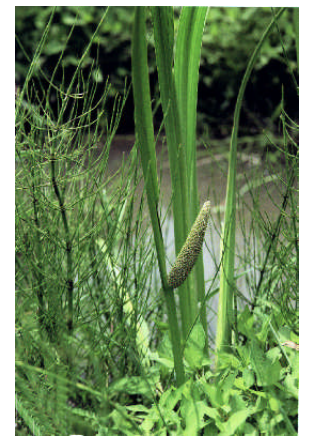
2004年の調査で判明したもの	15種
その後消滅したもの 絶滅したと思われるもの	6種 アリアケスマレ、スマレ、タチツボスマレ、 キランソウ、ネジバナ
再生が期待されるもの	ガガイモ



ヌメリグサ



ウシクグ



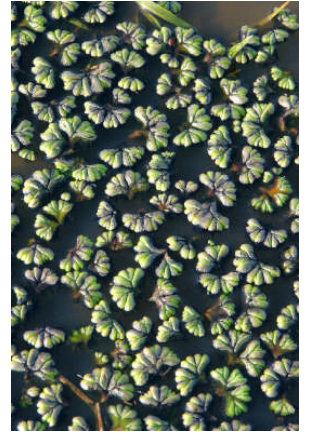
ショウブ



イヌコリヤナギ



マツカサススキ



イチョウウキゴケ